

フレイル予防の取組は



久保留美子



町長

継続的に
取り組んでいく

質問 人生100年時代と言われる今日、高齢者が最後の四半世紀を元気に暮らすためには、フレイル^(※)予防が重要と考えるが、町の取組状況を問う。

答弁 町長 高齢者が要支援・要介護状態とならないよう、町としてもフレイル予防が重要であると認識し、取り組んでいる。自宅に閉じこもりがちになるコロナ禍においては、FMたまむらの放送等も活用し、筋力トレーニング等、高齢者の体力の維持向上に取り組んでいる。

今後も、広報でのフレイル予防の周知を始め、継続的に介護予防の推進を図っていく。



質問 フードバンク事業の現状は

答弁 町長 今年度より新たに開始したフードバンク事業の現状は。

答弁 町長 長引くコロナ禍の影響か、8月1日のオープン以降、生活困窮者の方への食品配布のペースが早いと感じている。提供していただいた食品の有効活用をしていけるよう、住民や企業に向けて今後もフードバンクの周知を積極的に行っていく。

質問 配布を受けるまでの手順はどのようになっていくか。

答弁 健康福祉課長 生活保護の担当をしている健康福祉課の窓口で生活に困窮する方から相談があった場合、その日の食糧に困っているなど、相談内容に応じてフードバンクに話をつなげている。

質問 生活困窮世帯への生理用品の配布について

答弁 小・中学校のトイレに生理用品を置き、自由に使えるようにする考えはあるか。

答弁 学校教育課長 必要とする児童生徒への配布の仕方について、今後学校と児童生徒の実態を踏まえて相談し、検討していく。

質問 子ども食堂を地域に広げる取組は

答弁 町長 子ども食堂を広げる取組は進んでいるか。

答弁 町長 目標である「小町内に計5か所」が実現できるように、地域の皆さんと協働していきたい。

(※)フレイル：加齢や病気などにより、身体的機能や認知機能が低下し、普段の生活にも影響が出る状態のこと。

令和3年度重点施策の進捗状況は



宇津木治宣



町長

諸事業を推進・実施

質問 新型コロナウイルス感染症拡大防止策は。

答弁 町長 外国人労働者が多い企業にワクチンの接種勧奨を行ったほか、若い年齢層に対しても接種を勧奨している。

また、県央ワクチン接種センターでの接種を勧めるとともに、町内医療機関での接種及び集団接種を実施している。



若者にもワクチンを

質問 社会経済活動の支援策は。

答弁 町長 売上げが30%以上減少している町内事業者を対象として、信用保証料

及び利子4年間分を全額補助する予定である。

また、飲食店感染症対策支援事業として、店舗内のパーティションや消毒液等の購入費を補助し、テイクアウトや移動販売等の販路拡大を推進する事業については、事業費の3分の2、上限20万円を補助した。

質問 長寿社会を見据えた取組強化策は。

答弁 町長 高齢者が活躍できる地域づくりや多世代の交流の場を広げる活動により、介護予防や生きがいづくり等を推進し、健康寿命の延伸につなげたい。

そして、健康増進・健康長寿に向けて、要支援・要介護状態とならないよう、フレイル予防に取り組む。

質問 安心して子供を産み育てられる環境整備の推進を。

答弁 町長 昨年度に設置した「子育て世代包括支

援センター」については、令和3年8月までに131名の方の利用があった。今後も安心して妊娠・出産・子育てができるよう、必要な情報・サービスの提供を行っていく。

質問 生活困窮者への支援策は。

答弁 町長 フードドライブからの食糧支援、生理用品の配布、無料学習支援会場への文房具補助を行った。

町独自の取組としては、「なんでも福祉相談窓口」を設置し、心配事の相談を受け付けている。

また、8月からは、専任職員を配置して、フードバンクたまむらの活動を始めた。